

第140回 日商簿記検定試験 3級 一商業簿記一 解 説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

1. 商品販売代金のうち、30,000円については、先に受け取っていた手付金と相殺し、残額を掛けとして処理する。また、発送費用は先方負担であるため立替金として処理する方法と掛代金に含めて処理する方法の両方が考えられるが本問では、指示に従い掛代金と区別して立替金勘定で処理する。
2. ICカードの入金額を電車等の支払用として使用するため旅費交通費勘定に計上するとともに、現金による支払のため現金勘定を減額する。
3. 駐車場代は、支払地代として費用処理するとともに、当座預金からの支払であるため、当座預金勘定を減額する。
4. 給与の支払時に所得税預り金として処理していた金額を取崩し、現金で納付しているため現金勘定を減額する。
5. 支払利息：1,000,000円（元本）×1.5%×8ヶ月/12ヶ月=10,000円

第2問（帳簿組織）

主要簿：主要簿は、仕訳帳と総勘定元帳から構成されており、簿記上の取引（資産、負債、純資産の増減を伴う取引）を全て記録する帳簿である。

補助簿：補助簿は、補助記入帳（小口現金出納帳、現金出納帳、仕入帳、売上帳など）と補助元帳（仕入先元帳、得意先元帳など）から構成されており、簿記上の取引を部分的に記帳する帳簿のことである。

補助簿の役割は、特定の取引または特定の勘定の明細を表示するとともに、残高の照合をおこなうことである。各会社において、内部管理目的から必要とされる補助簿だけが用意されることになる。

解答の手順

- ③⇒補助簿の京都商店5/9より求める。
- ⑤⇒補助簿の奈良商店5/25より求める。
- ⑥⇒京都商店5/7より求める。
- ⑦⇒京都商店の貸方合計（736,000）を行い、借方の判明分（9,000+627,000）を控除して求める。
- ⑨⇒買掛金勘定の前月繰越（540,000）から京都商店の前月繰越（216,000）を控除して求める。
- ⑩⇒買掛金勘定5/20より求める。
- ⑧⇒奈良商店勘定貸方合計（⑨+⑩）から借方の判明分（6,000+374,000）を控除して求める。
- ④⇒京都商店5/15（627,000）と奈良商店5/15（⑧）の合計により求める。

第3問（合計残高試算表の作成）

以下各日の仕訳を示す。

5/ 4	(借) 仕 入	21,000	(貸) 買 掛 金	21,000
/ 5	(借) 当 座 預 金	18,400	(貸) 売 上	36,800
	(〃) 受 取 手 形	18,400		
/ 7	(借) 買 掛 金	21,000	(貸) 支 払 手 形	21,000
	(借) 通 信 費	500	(貸) 現 金	500
/11	(借) 備 品	12,800	(貸) 未 払 金	12,800
/12	(借) 消 耗 品 費	2,500	(貸) 現 金	2,500
/14	(借) 仕 入	29,000	(貸) 支 払 手 形	29,000
/15	(借) 水 道 光 熱 費	3,500	(貸) 当 座 預 金	3,500
/18	(借) 支 払 手 形	30,000	(貸) 当 座 預 金	30,000
/20	(借) 給 料	6,000	(貸) 当 座 預 金	6,000
/25	(借) 売 掛 金	35,700	(貸) 売 上	35,700
/26	(借) 当 座 預 金	39,000	(貸) 受 取 手 形	39,000
	(借) 支 払 手 数 料	1,000	(貸) 当 座 預 金	1,000
	(借) 支 払 家 賃	12,000	(貸) 当 座 預 金	14,000
/28	(〃) 通 信 費	2,000		

第4問（伝票の記入）

(1) 商品券取引

(借) 商 品 券	9,500	(貸) 売 上	9,500
(借) 商 品 券	500	(貸) 現 金	500

答案用紙に出金伝票と振替伝票が用意されている。したがって、出金取引とそれ以外の取引に分解する必要がある。そのため、上記の仕訳を切ることにより、各伝票に記入することができる。

(2) 配当金額収書

(借) 現 金	20,000	(貸) 受 取 配 当 金	20,000
---------	--------	---------------	--------

配当金額収書は、通貨代用証券に該当するため、現金で処理する。

(3) 手付金の支払い

(借) 前 払 金	15,000	(貸) 当 座 預 金	15,000
-----------	--------	-------------	--------

出金伝票は、現金の出金のみを記帳する伝票であるため、小切手を振出した場合には出金伝票に記帳することはできない。

第5問（精算表の作成）

未処理事項

1. 旅費の精算

(借) 現	金	2,000	(貸) 仮	払	金	30,000
(〃) 旅	費	交	通	費		28,000

2. 掛代金の回収

(借) 普	通	預	金	50,000	(貸) 売	掛	金	50,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	--------

3. 固定資産税の支払

(借) 租	税	公	課	3,000	(貸) 当	座	預	金	3,000
-------	---	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

決算整理事項

1. 貸倒引当金の見積り

(借) 貸	倒	引	当	金	繰	入	6,000	(貸) 貸	倒	引	当	金	繰	入	6,000
-------	---	---	---	---	---	---	-------	-------	---	---	---	---	---	---	-------

{360,000円（残高試算表受取手形）+240,000円（修正後売掛金）}×2%－6,000円（残高試算表貸倒引当金）
＝6,000

2. 売上原価の算定

(借) 仕	入	314,000	(貸) 繰	越	商	品	314,000
(借) 繰	越	商	品	337,000	(貸) 仕	入	337,000

3. 減価償却

(借) 減	価	償	却	費	100,000	(貸) 備	品	減	価	償	却	累	計	額	100,000
-------	---	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---------

400,000円（取得原価）÷4年（耐用年数）＝100,000円

4. 保険料の繰延べ

(借) 前	払	保	険	料	20,000	(貸) 支	払	保	険	料	20,000
-------	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

24,000円×10ヶ月（翌年1月～翌年10月）/12ヶ月＝20,000円

5. 受取利息の見越し

(借) 未	収	利	息	2,000	(貸) 受	取	利	息	2,000
-------	---	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

200,000円（残高試算表貸付金）×3%×4ヶ月（9月～12月）/12月＝2,000円

6. 受取地代の繰延べ

(借) 受	取	地	代	12,000	(貸) 前	受	地	代	12,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

偶数月に向こう2ヶ月分を支払っているため、当年12月に翌年1月および2月の地代を受け取ることになる。したがって、2か月分は翌年の収益であるため、繰延べの処理が必要である。

7. 支払家賃の繰延べ

(借) 前	払	家	賃	11,000	(貸) 支	払	家	賃	11,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	---	--------